

## 高齢者の主観的健康観と孤独感及び絶望感に関する研究

1220467 坂井 拓也

指導教員 日道俊之

### 研究背景

日本人の健康寿命は男性 72.68 年、女性は 75.38 年であり、平均寿命との間に男女ともに 10 年程度の差がある。この差は、介護等が必要な期間を示しており、近年では、介護にかかわるコストや、介護ハラスメントが問題視されている。超高齢社会に入った我が国において、このような介護問題はこれからも続くと考えられる。そこで、健康寿命に関係のある主観的健康観に影響を与える心理的な要因を研究することで、健康寿命を損なう要因を推測することにした。本研究では、その心理的側面において、孤独感と絶望感に着目した。

### 研究目的

主観的健康観に対し、絶望感と孤独感が負に関係するかを明らかにすることを目的とする。

### 調査・分析方法

55 歳以上の高齢者に対し qualtrics を用いたウェブアンケート調査を行った。主観的健康観尺度、生きがい尺度、孤独感尺度、絶望感尺度の 4 尺度を用い回答を求めた。各尺度及び BMI の相関分析を行い、年齢・性別・疾患の有無・BMI・孤独感・絶望感を説明変数とするモデルについて、主観的健康観と生きがいの各因子を従属変数とする重回帰分析を行った。

### 分析結果

主観的健康観および生きがい尺度に対し、①孤独感よりも、絶望感に対しより大きく負の影響を与える項目、②互いに正の影響を与える項目、③絶望感よりも、孤独感に対しより大きく負の影響を与える項目という 3 パターンに分類することができた。

### 考察・結論

本研究の結果、絶望感と孤独感は主観的健康観および生きがい尺度に対し、おおむね有意な負の影響を与えていた。したがって、仮説は一部支持されたといえる。本研究の結果で特筆すべきは、孤独感よりも絶望感の方がより影響を与える項目が確認された点である。絶望感とは自己の将来に焦点が向けられた負の感情なので、自分の現在と未来に対する肯定的な感情に関連する①の尺度群により強く影響したと考えられる。また、生きがい尺度は全てこの尺度群に該当し、孤独感とは別の負の影響力を絶望感が持つことを示した。高齢者の絶望感にも配慮することで、健康寿命を促進する新たな対応策を導き出せるかもしれない。